

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：都市道路網の料金政策と交通管理	
日付： 6月 13日（土）曜日、セッション時間：14:50～16:20	
オーガナイザー・司会者名（所属）： 秋山孝正（関西大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：このセッションでは、都市内の料金制策として、都市高速道路の料金制策と一般道路においてはバス料金制策を議論した。特に都市高速道路においては、近年 ETC の普及によって料金徴収面での技術的な進歩を踏まえて、対距離料金制、各種割引制度が導入されている。また、一般道路網においては、路線バス、コミュニティバスなどの料金設定は交通需要面から重要である。本セッションでは、このような視点から適正な料金制策と都市航路網の交通運用を統合的に検討するための、要素技術に関する議論を行った。料金問題の点では、車種別料金、ETC 割引料金、時間帯別料金、ゾーン制料金などが検討された。また分析技術面では、交通量配分、交通シミュレーションを基本として道路交通流動の推計結果から、料金制策の有効性を検討することができた。今後、技術的に期待される時間空間的な可変料金が運用可能となることから、従来型の交通運用との統合的運用に関して、多数の提案ができる可能性がしめされた。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：環境負荷を考慮した都市高速道路の車種別料金設定について 井ノ口 弘昭（関西大学） ①環境排出物の計測方法についての現実的な環境政策との関係性を明確にする必要がある。②現行の車種別料金は都市高速道路では2車種区分であるため、現実的な分類方法を検討する必要がある。③車種を考慮した交通運用との関係を検討してみてもどうか？</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：交通需要の時間的分散を目指した都市高速道路の料金決定問題 伊庭洋一（阪神高速道路） ①空間的な変化について検討するときには問題が発生しないであろうか？ ②時間帯を検討する場合には残留交通量の影響が発生しているがどのように検討するのが適当であろうか？ ③現実的な運用方法について検討する必要があるのではないか？</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：都市高速道路の時間帯別料金政策に着目した交通シミュレーションモデル 奥嶋政嗣（徳島大学） ①時間帯モデルの基本的なメカニズムについては、すこし説明を要する。②今回の行動モデルでは、行動途中における経路選択の変更に関して含まれていないのではないか（ここでは、経路先決するモデルになっていて特に検討していない）。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：最適 ETC 料金割引制度に関する一考察 鈴木崇児（中京大学） ①結局このモデルから、ETC 料金の専用化を実施するのは難しいということになるのかどうか検討をお願いしたい。②時間帯の移動を検討するためのマージンの設定方法について特定の方法論があるかどうか（この点は標準的な方法に従っている）。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：都市交通シミュレーションを用いたバス料金政策についての影響分析 秋山孝正（関西大学） ①バスの走行改善についての議論はあったが、サービス水準との関係（混雑度・待ち時間）などの算定は行なっているか（算定されておりバックデータはある） ②現実的な料金制策が実行されないのはなぜか（バス事業者が割引きに関して消極的なため）</p>

※発表件数に応じて適宜追加してください。